

## ごあいさつ



本市では、平成14（2002）年度にスタートした第三次総合計画が令和3（2021）年度に20年間の計画期間を終えます。この間、東日本大震災や記録的な豪雨による水害などの甚大な被害を受けて、震災復興や浸水対策など、市民の皆さまが安全に安心して暮らせるまちづくりを最優先に進めてきました。また、進行する少子高齢化・人口減少への対策として、充実した子育て支援策をはじめ、若い世代の定住化につながる取組と高齢社会に対応する取組を積極的に進めてきました。

少子高齢社会の進行により加速化する人口減少と人口構成の不均衡は、まちの活力の根源に関わる重要な課題であり、また、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による生活様式の変化の状況を踏まえると、今後は、これまで以上に迅速かつ計画的な対応が求められます。

さらに、老朽化する公共施設や都市基盤（社会インフラ）の更新等が必要となるなど、行財政を取り巻く環境は一段と厳しくなることが見込まれます。

こうした状況を踏まえつつ、今後も持続可能な自立した都市として発展していくため、これまで取り組んできた施策を着実に進めるとともに、本市が持つ資源や魅力を磨き上げ、まちの活力をより一層高めていくことを目指す新たな総合計画を策定しました。本計画は、12年後の我孫子市の将来都市像「未来につなぐ 心やすらぐ水辺のまち 我・孫・子」に向かって、まちづくりを総合的に進めていくため、8つの柱と横断的な取組を定め、取り組むべき施策を位置づけたものです。

これから12年間、本計画に基づき、これまで築いてきた市民と協働で進めるまちづくりを継承しながら、さまざまな取組を着実に進めていきます。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただいた総合計画審議会委員の皆さまをはじめ、アンケート調査や「あびこみんなのまちかいぎ」などで貴重なご意見をいただいた市民の皆さまに、心から感謝を申し上げます。

令和4（2022）年3月

我孫子市長 **星野 順一郎**